

ひろしま県

高次脳機能センターだより

第8号

平成30年8月16日 発行



当センターに入院されている福永寛さまの作品です。
なつかしい昭和の時代の風景です。

CONTENTS

特集1

- 子どもの高次脳機能障害について……②
- コラム……③

利用者のページ

- K様……④

特集2

- 新たな福祉サービスが創設されました …⑤

関係機関ニュース

- お知らせ……⑥
- 福山リハビリテーション病院……⑦

案内

- 診療案内・スタッフ紹介等

お知らせ

広島県高次脳機能センター

センター長 近藤 啓太

今年の機関紙のメインテーマは「小児の高次脳機能障害」となっております。当センターでは平成13年のセンター開設以来、毎年10名弱の新規の小児期の高次脳機能障害の患者を受け入れております。一度受け入れると、「大人になるまで」の長期間に渡ってフォローする体制でリハビリを実施しており、進学、就職など大きなライフイベントの支援経験も少しずつ蓄積されてきました。これらの経験に基づき、小児の高次脳機能障害の支援の特徴やポイントなどについてまとめております。また、この度のテーマに合わせて、小学校の時に交通事故に遭い、現在高校生活を送っている患者さん、ご家族からの体験談を頂くことができ、紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

また、今年度の広島県の高次脳機能障害支援体制の大きな話題として、福山地区の地域支援センターに、大田記念病院に加えて、新たに福山リハビリテーション病院が指定されました。そこで、この度の施設紹介では、その福山リハビリテーション病院を取り上げさせていただきます。

この度の機関紙の内容が、高次脳機能障害の支援に日頃より尽力されている皆様になしでもお役に立つ内容であれば幸いです。

高次脳機能障害は、脳の病気（脳卒中や脳炎など）や脳の怪我（交通事故や転落など）が原因で起こる障害です。高次脳機能障害の詳しい説明は、当センターホームページやこれまでの機関紙をご参照ください。

●子どもの高次脳機能障害の原因

成人の高次脳機能障害の原因は脳血管障害（脳卒中など）が最も多いのですが、子どもの場合は、成人と比べて原因となる疾患の割合が異なります。

子どもの高次脳機能障害の原因となる疾患をそれぞれみていきましょう。

①急性脳症…細菌やウイルスへの感染による急性脳症のような脳の病気が原因となることが多いようです。インフルエンザ脳症という、重大な病気としてご存知の方も多いのではないのでしょうか。

②低酸素脳症…お風呂やプールなどで溺れたり、何か（食べ物や異物）を喉に詰まらせて窒息したりした後に、幸い一命はとりとめても高次脳機能障害が後遺症として残る場合があります。

③脳外傷…脳の怪我の原因として、幼児期には、転倒・転落・虐待によるものが多く、幼児期から学童期前半では歩行中の交通事故が、学童期後半以降は自転車乗車中の交通事故が多くあげられます。また、中学生、高校生になると、スポーツ時の外傷も原因となることがあります。

④脳血管障害…子どもの脳血管障害の原因は成人の場合とは大きく異なります。脳出血では脳動静脈奇形によるもの、脳梗塞ではもやもや病、心疾患

に伴うもの、感染、外傷によるものなどがあります。

⑤脳腫瘍…脳腫瘍の発生部位や治療経過により後遺症の症状が異なります。また、脳腫瘍では、小児科、や、脳外科、での病気の治療が優先され、一般的に病状が安定するまで年単位の時間がかかります。その後、リハビリ、に通うケースは稀であるため、その後遺症である高次脳機能障害は見逃されがちな印象です。特に、治療経過の中で、身体的な麻痺や言葉が出てきにくくなったといった症状がみられなければ、進学や就職するまでの何年もの間、高次脳機能障害にフォーローが入らな

いままとなってしまうケースもあります。

●子どもの高次脳機能障害の特徴

【成人の高次脳機能障害と比べて】

これまで見てきたように、原因となる疾患の種類は成人の場合と比べその割合や発症率が異なっていますが、高次脳機能障害に対する基本的な考え方は成人の場合と同様です。しかし、子どもの場合には、発達途中の脳へのダメージが、その後の発達に影響するという点に注意が必要です。

・知能面も精神面も発達途上であること…損傷を受けていない部位の機能の正常な発達を支援することと、脳の可塑性による障害を受けている機能の代償発達を支援する視点が重要です。

・参加、活動の場として「学校」が存在する…成人の場合は、仕事を休職ししっかり仕事ができるようになるまで療養（リハビリ）することが多いの

に対して、子どもの場合は、早期に「学校」に戻ることが多いです。そのため、発育の場である「学校」にいかにして本人が定着していくかが大切です。支援者（家族やリハビリなど医療スタッフ）と、学校との連携が必須であると言えます。

・学年が上がる毎に、苦手が明らかになってくる可能性ががあります。例えば抽象的思考力を司る脳部位に損傷があった場合には、小学校低学年の頃には気づかれにくく、高学年になる頃に困難さが明らかになることがあります。

【発達障害と比べて】

発達障害は、先天的な脳の機能障害であり、高次脳機能障害とよく比較されます。子どもの高次脳機能障害と発達障害の違いは以下のような点が挙げられます。

・損傷部位により、現れる症状が異なります。

・症状が変化したり、症状が改善したりする可能性があります。

・以前（受傷／発症前）の自分を覚えています。つまり、以前の自分のイメージがあり、友達とうまく遊んでいた自分や学校の授業についていた自分を覚えている場合があります。その場合には、学校での失敗経験から「以前と違う」と気づきます。わたしたちの病院に通うお子さんでは、「自分がバカになった」と話してくれることもあります。

●子どもの高次脳機能障害の評価とリハビリ

子どもの高次脳機能障害の評価は、成人の評価よりも難しいと言われています。評価するときには、机上の検査だけでなく、日常生活や学校生活の様子を聞き取って、どのような難しさがあるのかを把握することが大切です。加えて、周囲の環境の変化に

より、明らかとなる難しさもあります（例えば、進級・進学・就職など）。そういった意味で、支援者は、子どもの成長を長期的に見守っていくことが必要であると考えています。

リハビリでは次のようなことを考えておこないます。第一に、機能の改善を目指す取り組みは必要です。また、それと同時に生活が上手に送れるように見直す練習やメニューをとる練習をするなど代償手段を覚えてもらうことに取り組みます。これには、学校での失敗からくる自尊心の低下といった二次障害の予防という側面もあります。

第二に、怒りなどの感情爆発や欲求コントロール低下、こだわり、対人技能拙劣などの社会的行動障害に対してもリハビリを行っています。リハビリを行う際のポイントは次のようなことです。

・成長や環境に応じて問題が変化するという視点を持つ。

・感情爆発に対して、本人が反省しているならそれ以上の反省を求めない。その代わりにどうしたらもっと良いかを具体的に伝え、その場を離れる、気をそらすなどの代償行動を覚えてもらう。

・発症年齢により、常識や相手の気持ちなどを教えたり、言葉によって解説したりする必要がある。

● かかわりのポイント

【学校生活での留意点】

・発症前の経験を活かせるため、ある程度適応的な行動がとれることが多い。そのため、「目立たない子」「手のかからない子」として教師は認識していることが多い。

・本人の過剰な努力により苦手が他者に認識されづらい。

・学校では頑張っただけではへとへと……というパター

ンに陥る子どもも見られる。

【二次障害予防のための環境調整】

- ・「できること」を実施する。
- ・できない、分らない自分でも認めてもらえる経験も必要。例えば、本人の合意のもとで、100点を目標さなくてもよい環境を整えたり、合格ラインを下げたりする。
- ・上手にできるように自然な形で代償行動を使用させる。

コラム

高次脳機能障害を自己認識することの難しさ

関根 真悠

物を覚える、判断するなど、人間が当たり前のように普段の生活のなかで使っている高次脳機能は障害を受けるとこれまでとは一変して生活に支障をきたしてしまいます。しかし高次脳機能障害の患者さん御本人に何か困りごとはないですか？聞いても「特に困っていません」と返答されることがよくあります。高次脳機能障害は見た目にはわかりにくく周囲も、本人自身も症状に気づく事が困難な事が多い障害です。

高次脳機能障害を自己認識することの難しさは図の神経心理学的ピラミッドで示されます。下の階層に問題があると、より高次の機能は影響を受けてしまいます。例えば、覚醒が悪いと集中力や記憶力は発揮できません。また、覚醒が良くても記憶力障害があると物事を効率よくすすめていくための遂行機能は低下してしまいます。この中で自己認識はより高次の機能となっており、非常に

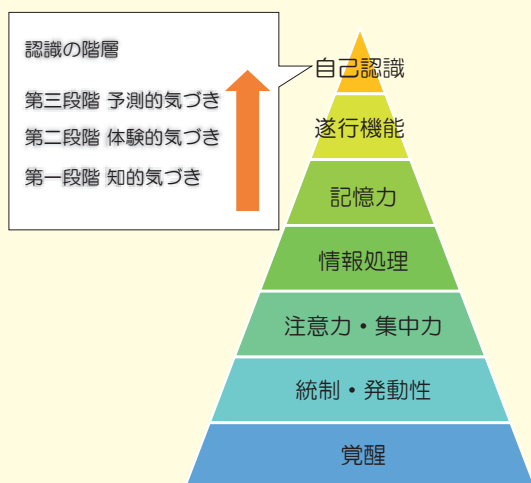
● まとめ

子どもの高次脳機能障害について、その原因、子どもならではの特徴、かかわる際のポイントなどをまとめてみました。支援については、まだまだ手探りな部分も多いのですが、高次脳機能障害をお持ちの子どもさんとそのご家族の幸せな生活のために、できることを行っていければと考えています。

難しい機能といえます。

さらに認識についても三段階の区別があり、自身の高次脳機能障害を理解し対処するといった認識は最も高位の段階と位置付けられています。

認知リハビリテーションを通して、高次脳機能障害に対する理解を促し成功や失敗といった体験的な気づきを積み重ねてより高位な自己認識に少しでも近づける事で適切に社会生活が送れるお手伝いができればと考えております。



「ニューヨーク大学ラスク研究所 Yehuda Ben-Yishay博士の神経ピラミッドモデル」改変

利用者のページ

「小学生の交通事故 子どもと家族の歩み」

K

僕は、小学校五年生の夏休み、自転車で帰宅中交通事故に遭いました。

意識不明で、救急車で運ばれ、ICU治療室に入りました。その時に出た診断名は、びまん性脳損傷、右脛骨骨幹骨折でした。

意識回復後、一般病棟に移りリハビリが始まりました。足の骨折でのリハビリは、歩くのが大変だったこと、握力も落ちていて、指先でお菓子のポッキーを持つのもやっとでした。厳しいリハビリの中、嬉しかったのが、病院の屋上が数少ない外気に触れる場所で、とても風が心地よかったことを覚えています。

車椅子で動けるくらいになった頃、小学校の校長先生、担任の先生、いここ、近所のお友達がお見舞いに来てくれとても嬉しかったことを覚えています。

事故後2ヶ月を過ぎた頃、本格的なリハビリの為、転院しました。

この頃になると、理学療法で屋外を歩いたり、一時帰宅が出来るようになりました。その時、ちょうど学校では、学習発表会があり、ほんの少し参加して、久しぶりに仲間に会え、その時は、とても嬉しかったです。名古屋から、おばあちゃんや叔父、叔母がお見舞いにも来てくれ、少しだけ歩く姿を見てもらえました。

ここでの入院は、お年寄りが多く、小学生は僕1人だけの入院生活だったので、夜はとても寂しかったです。事故から4ヶ月たった12月24日、無事に退院しました。退院のお祝い、食べたかった久しぶりの鍋がとてもおいしかったです。

また、家の布団は気持ちよく寝れました。

年が明けて、三学期から小学校生活に戻りました。通学中は、注意障害もあり父が同行したり、母に送り

迎えをしてもらいながら登下校をしました。

事故の後遺症で、高次脳機能障害になった為、友達とのコミュニケーションが上手くいかず、とてもつらい学校生活を過ごしました。

でも、母が小学校の校内でボランティア活動をしていた為、様子を見に来てくれたりし、教室に入れない時は、保健室登校をしながら小学校を卒業しました。

中学校に入り、リハビリなどで早退することもありましたが、重たい通学かばんを持つて三年間徒歩通学をしました。

中学校に入っても人間関係でのトラブルがあり、悩んだりすることがありましたが、その時は、相談室や保健室といった場所を利用することで、トラブルを避けることを覚ええました。

高校受験は、当然初めて経験することばかりで、大変でした。進学する学校選びは、学力、通学といった面を、両親や担任の先生、進路の先生と相談しながら決めました。

しんどいながらも、時間を決めて勉強に励みました。そして、自宅そばの県立高校に見事合格することができました。心配してくださった担任の先生、進路の先生、教科担任の先生までもが、お祝いの言葉をください、あの時は、すごくうれしくやりきった感がありました。

現在は、高校に入学し、そこそこ話せる友達もでき、勉強も難しいですが楽しいです。

引き続きリハビリを続けながら日常生活、学校生活を送り、また、自分で決めた勉強時間も、今でも欠かさずやっています。

リハビリの回数も減り、体の回復を感じられるその反面、将来の不安は大きいです。

もちろんこの先の高校生活で、進学もしくは就職といった進路についても気になります。

今後とも体力面や学力面で努力し、対人関係にて良い人間関係が築けるように頑張りたいと思います。



【両親】

息子が、ここまで回復できるなんて思いもしませんでした。

意識が戻らない日が何日も続き、付き添いの日々の中で、無我夢中で介護をし、家族に協力を求めながら日々過ごしました。あの子の弟妹には寂しい思いをさせることもありました。

退院が決まる頃、病院の先生から言われた事があります。

「これからが大変ですよ。長い目でみてあげて下さいね」と…

その時は、全く分かりませんでした。

学校や日常生活が始まり、その事がよく分かりました。高次脳機能障害…何冊も本を読んだり、本も買ったり、当事者の話を聞きにいったりもしました。

高次脳機能障害を抱える日々、本人に限らず、家族でさえも心が折れそうになる事もあります。日々の不安、将来の不安もまだまだありますが、支援してくださる先生方や、同じ立場の人たちにアドバイスを戴きながら、親子で頑張っていると思います。

リハスタッフから

Kくんに初めて会ったのはKくんが小学生のときでした。気が散り集中できない、人の話が聞けないといった注意障害、思いつきで行動し何がしたかったかわからなくなるといった遂行機能障害、イライラを抑えられないといった感情コントロールの難しさを抱えるKくんは、学校での勉強や友達との人間関係でしんどい思いをすることがたくさんありました。ご家族の協力もあり、Kくんが楽しく学校生活を送れるよう、学校の先生を交えKくんの特徴や必要な環境調整、対応について話し合いを重ねてきました。

真面目で責任感が強く意志の強いKくんは、リハビリにもいつも一生懸命取り組んでくれています。現在高校生になったKくんは、集中して勉強できるようになり、感情を抑えたり我慢することができるようになりました。最近では、自分の苦手なところ、将来したいことなどを話してくれることがあり、こうしたことを考えられるようになったKくんの成長をとてもうれしく感じています。今後課題に直面することがあるかもしれませんが、Kくんの充実した生活のために、Kくんやご家族と一緒に悩み、必要な支援・環境を提案していきたいと思っています。

スタッフから

K君が、事故に遭ったのは約5年前。高次脳機能障害支援普及事業が全国的に展開され始めたとはいえ、まだまだ「高次脳機能障害」については、医療や福祉の分野でも知られていないと言えませんでした。ましてや教育の分野まで浸透するにはある程度の時間を要しました。

そんな中、K君が学校に戻ってから、障害を理解してもらうために、当センターからコーディネーター、訓練士を派遣して、K君の障害を説明し、級友には、家族からの手紙を渡して理解をお願いするなど「高次脳機能障害」の理解に努めてきました。本人の努力はもちろん、家族の献身的な支えによって、現在では、高校生活を満喫されているようです。今後、社会へ出るには就労という大きなハードルが待ち構えています。本人、家族と一緒に頑張って乗り越えていきたいと思っています。

特集2

新たな福祉サービスが創設されました

改正された障害者総合支援法が、平成30年4月1日に施行されました。その中から、新たに創設された『自立生活援助』と『就労定着支援』をご紹介します。

『自立生活援助』とは？

施設や病院等から地域での一人暮らしを希望されても、理解力や生活力が十分でないため一人暮らしを選択することができない方もいます。そこで、本人の意思を尊重した地域生活を支援するため、定期的な巡回訪問や随時の対応により、適時のタイミングで適切な支援を行うことを目的に創設されたサービスです。

●対象となる人は？

・障害者支援施設やグループホーム、病院等から地域での一人暮らしに移行した障害者等で、理解力や生活力等に不安がある方
・一人暮らし、あるいは障害、疾病等の家族と同居し、家族による支援が見込めず、実質的に一人暮らしと同様の状況にある方

●支援内容は？

定期的に居室を訪問し、利用者の生活状況や日常生活上の課題を把握します。定期訪問以外にも、利用者からの相談・要請があれば訪問、電話やメール等を随時行います。確認された課題に対し必要な情報の提供や助言、医療機関等との連絡調整を行い、安心して地域生活を送ることができるよう支援します。

標準利用期間は「1年」ですが、必要性が認められれば延長も可能です。

『就労定着支援』とは？

障害者の雇用者数は14年連続過去最高を更新。平成30年4月1日から障害者雇用義務の対象に精神障害者が増え、民間企業における法定雇用率は20%

から22%に引き上げられ、障害のある方の一般就労は増大しています。一方で、(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構の調査によると就職1年後の職場定着率は約70%~50%と、就労定着は大きな課題です。これまでも就労移行支援事業所や障害者就業・生活支援センター等が定着支援を担っていましたが、多様化かつ増大する就労に伴う生活上の支援ニーズに対応できるよう、事業所・家族との連絡調整等の支援を一定の期間にわたり行うことを目的に創設されたサービスです。

●対象となる人は？

・就労移行支援、就労継続支援、生活介護、自立訓練の利用を経て一般就労した方
・就労に伴う環境変化により生活面の課題が生じている方

●支援内容は？

月1回以上、利用者の自宅・企業等への訪問や来所による対面相談を通じて職場環境や生活上の課題を把握し、課題解決に必要な支援や、企業や関係機関等との連絡調整を行います。

法改正後も、就労移行支援事業所等が就職後半年間は定着支援を担い、『就労定着支援』はその後最大3年間の利用となります。さらに支援が必要な場合は、障害者就業・生活支援センター等に引き継がれることになると考えられます。

『自立生活援助』と『就労定着支援』は、実際の生活場面や就労場面への訪問により、課題把握や必要な支援を受けることができるとても有効なサービスです。スタートしたばかりで、まだまだ不透明なところはありますが、活用を検討されてみてはいかがでしょうか。

生活リズムは？
体調管理や内服管理は？
遅刻や欠勤が増えていない？
身だしなみは乱れていない？
給料の浪費はない？

関係機関ニュース

お知らせ

福山リハビリテーション病院が
『高次脳機能地域支援センター』
に追加指定されました

高次脳機能地域支援センターには高次脳機能障害に関する相談窓口が設置されています。より高度な診断・評価・リハビリを必要とする場合は広島県高次脳機能センターへ紹介するなど、地域における支援窓口としての役割を担っています。

広島県内の高次脳機能地域支援センター

二次保健医療圏	医療機関（所在地）
広島	広島市立リハビリテーション病院（広島市安佐南区）
呉	呉中通病院（呉市）
尾三	公立みつぎ総合病院（尾道市）
福山・府中	脳神経センター大田記念病院（福山市）
	福山リハビリテーション病院（福山市）
備北	三次地区医療センター（三次市）
広島中央	井野口病院（東広島市）
広島西	廿日市記念病院（廿日市市）

家族会情報

『日本脳外傷友の会
第18回全国大会』は
三重県で開催

今年度の『日本脳外傷友の会全国大会』は「未来につなげ支援の輪」高次脳機能障害の支援の充実を目指して」との大会テーマのもと、平成30年10月19・20の両日で、三重県にて開催されます。皆様、ぜひご参加ください。

勉強会情報

家族セミナーのご案内

高次脳機能センターでは、毎月2回、高次脳機能障害者やそのご家族、高次脳機能障害に関心をお持ちの方を対象に学習会を開催しています。

場所…広島県立障害者リハビリテーションセンター2階多目的室（都合により変更する場合があります）

日時…第一金曜・第二火曜の14時15分～14時55分
内容…月ごとに、①「脳障害とその後遺症について」②「リハビリテーションと本人への関わり方について」③「福祉制度について」という内容を扱っています。①は10月・1月に、②は8月・11月・2月に、③は9月・12月・3月に実施予定です。

*参加を希望される方は、参加申込書にご記入のうえ、高次脳機能センターにお申し込みください。当日参加も可能です。

家族会情報

家族会のご案内

当センターにて、患者様のご家族主催の家族会が開催されています。日頃の思いや悩みを語り合うことで、少し気持ちが楽になるかもしれません。また、ご家族ならではのアドバイスもいただけますよ。

家族会「シェイキングハンズ」

第一火曜 13時半～

家族会「ケセラセラ」

第一金曜 11時～

研修情報

平成30年度高次脳機能
障害研修会のご案内

平成30年10月7日（日）広島市西区民文化センターにて開催します。

この研修会は、日本損害保険協会の助成を受け、高次脳機能障害に対する正しい理解と認識を深めるために実施しています。今回は、「見えない障害の難しさ」をテーマに、東京慈恵会医科大学の渡邊修先生と横浜市総合リハビリテーションセンターの山口加代子先生にご講演をいただく予定です。高次脳機能障害は外見からは症状が分かりづらいため、周囲から誤解を受けやすい面があります。この講演を聞いていただき、高次脳機能障害を一人でも多くの方に理解していただければと思います。参加料は無料です。沢山の方の参加をお待ちしております。

お知らせ

図書の紹介

おすすめの1冊を紹介します。
『分かりやすい小児の
高次脳機能障害対応マニュアル』

栗原 まな 編著

本書は、「小児の高次脳機能障害とはどのような障害か」「何が原因で起こるか」「どのような対応をしたらよいのか」「対応のポイント」「親の心構えは何か必要か」等、具体的な対応策が分かりやすく書かれています。
是非お手に取ってご覧ください。

施設紹介

福山リハビリテーション病院

当院は、平成28年10月より福山市明神町に新築移転し、回復期リハビリテーション病棟3病棟116床を中心に障害者病棟2病棟75床の計191床、透析センター20床を併設、訪問リハビリテーションの機能を有した機関となります。

以上に加え、平成30年4月1日広島県より福山市内では大田記念病院に次ぐ2か所目の高次脳機能地域支援センターの指定を受けることができました。広島県高次脳機能センターの立ち上げにも関わった、経験豊富な2人、丸石医師とリハビリテーション部課長の川原作業療法士を中心とし、毎週火曜日予約制にて専門外来の診察とリハビリを実施しております。



写真左から 作業療法士：栗原、
リハビリテーション部 課長：川原、医師：丸石、
言語聴覚士：森澤、認定心理士：西、
ソーシャルワーカー：東原



地域支援センターでは、当院を退院された方のフォローアップを中心に、他院を退院された方、今まで地域生活されてきた中で高次脳機能障害による生活のしづらさを抱えておられる方

の専門的なリハビリテーションをご提供させていただいております。その方々の達成目標は、自動車運転再開や復職、地域生活の安定など多様なニーズをもたれています。

また、入院、外来患者ご家族さまを対象に、学びの場や情報交換ができる場の提供として月1回の頻度で院内家族セミナーを開催し、ご家族同士が気軽に話し合える場の提供をしております。

日頃から広島県高次脳機能センターへは、当院からご紹介させて頂くことも多く、より専門機関のご支援をいただき心強く感じております。また、当院としても福山地域に戻られた方を安心してお任せしていただけるよう、支援体制の強化を図ってまいりたいと考えています。

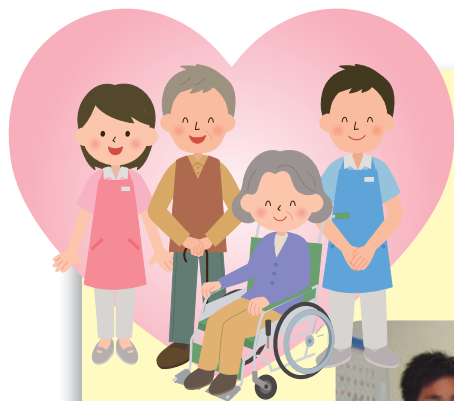
まだまだ走りだしたばかりですが、地域において高次脳機能障害の支援がますます充実するよう尽力して参りたいと思っております。何かございましたら、いつでもお気軽にご相談、お問い合わせください。



医療法人健応会
マスコットキャラクター
ヘルスサポートくん

医療法人健応会
福山
リハビリテーション病院

〒721-0961 福山市明神町二丁目15番41号
TEL:084-916-5500 FAX:084-916-5511
<http://www.fukuyama-rh.jp/>



スタッフの紹介



高次脳機能センター スタッフ一同
新しいメンバーも加え
気持ちも新たに頑張ります！



編集後記

平成30年7月豪雨では広範囲で甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方、被災された皆様には謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。当センターに直接的な被害はありませんでしたが、道路の寸断、公共交通機関の運休により、多くの患者様に来院することができない状況が発生しました。それぞれに不安な思いと不便な生活を送られている中、多くの皆様から当センターとスタッフを心配してくださるお言葉をいただき、心より感謝です。一日も早く平穏な生活を取り戻すことができるよう、心より願っております。

おこわわ

原稿・写真については、ご本人の承諾を得て掲載しています。

診療案内

□ 診察の流れ

予約制になっております。予め電話でご予約の上ご来院ください。

① 電話予約

082-425-1455(代表) 高次脳機能科受付 内線237

受付時間 月～金 9:00～17:00

専門のコーディネーターが対応します。

相談のみでもお受けします。

② 高次脳機能科・神経内科 外来診療

脳神経に関する専門医が診察します。

(H30.4.1～)

	月	火	水	木	金
9:00 ～ 12:00	近 藤 関 根	近 藤 関 根	近 藤 関 根	近 藤 関 根	近 藤 細 見
13:00 ～ 13:30	近 藤	近 藤	近 藤	近 藤	近 藤

診察をスムーズに行うため、現在診療を受けている医療機関の主治医と相談のうえ、可能であれば紹介状・頭部CTやMRI等の画像をお持ちください。

③ 入院・リハビリテーション・社会復帰支援・相談、家族支援

高次脳機能障害の病態に応じて医療と福祉の連続したサービスを提供します。